

この3月11日で東日本大震災から1年を迎えました。震災で命を落とされた方々には心より哀悼の意を表します。

今月は、未来の子どもたちにむけて被災地である岩手県釜石市の防災教育を子どもにもわかりやすく紹介した本をご紹介します。

『みんなを守るいのちの授業 大つなみと釜石の子どもたち』

片田 敏孝／著 NHK 取材班／著 釜石市教育委員会協力 NHK 出版 2012年
1470円

ノンフィクション

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

2011年3月11日。東日本大震災のつなみで大きなひがいを受けた岩手県釜石市。しかし、釜石市の小中学生は、地震がおこった時、自分で考え行動することで自分自身を含め多くの命を救ったのでした。

なぜ、かれらにそれができたのでしょうか？

大昔から何度もつなみの被害を受けてきた釜石市では、日ごろから大地震やつなみがおそってきた時に、どこに行けばいいのか？何に気をつければいいのか？などを練習していたからでした。

この本には釜石の子どもたちがどんな練習をしてきたのか、それが震災当日どう生かされたのかが書かれています。

地震やつなみはいつどこでおこるか誰にもわかりません。私たちも釜石の子どもたちの姿を通して防災について考えてみましょう。

<子どもに手渡すときのポイント>

この本は子どもにわかるように書かれています。防災を子どもたちに教える立場の大人である私たちにも発見の多い本です。古くから地震やつなみに襲われてきた三陸地方の先人の教訓は、九州の私たちには思いも及ばないこともあります。この本を通して、ぜひ子どもと一緒に防災について考えてみませんか？



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

